整理番号：　　1/6

製品安全データシート

1．製品等及び会社情報

1．1 製品の特定

製品名：　ローヤルアロー　ＥＸコート　18L
製品分類：　自動車ボディコート剤
用途：　自動車ボディの艶だし、撥水
使用上の注意：　上記用途以外には使用しないこと。

1．2 会社情報

会社名：　株式会社ユーエスシー
住所：　〒１８３－００４４　東京都府中市日鋼町１番１
担当部門：　営業１部　　担当者：
電話番号：　０４２－３５１－００１１　　ＦＡＸ番号：　０４２－３５１－００１０
作成者：　　e-mail：
改定日：　２０２５年　２月　６日

2 危険有害性の要約

最も重要な危険有害性及び影響

GHS 分類

・物理化学的危険性：分類基準に該当しない
・健康に対する有害性
　・特定標的臓器毒性（単回ばく露）　区分１　中枢神経系、血液系
　・特定標的臓器毒性（単回ばく露）　区分３　麻酔性
　・特定標的臓器毒性（反復ばく露）　区分１　中枢神経系、呼吸器系
※上に記述のないものは、「区分に該当しない」か「分類できない」

GHS ラベル表示

・絵表示またはシンボル

・注意喚起語：危険
・危険有害性情報：
●中枢神経系、血液系の障害
●呼吸器への刺激のおそれ
●眠気またはめまいのおそれ
●長期にわたる、または反復暴露により中枢神経系、血液系の障害

注意書き

安全対策

＊使用前にラベルをよく読むこと。
＊全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
＊上記用途以外には使用しないこと。
＊取扱い後は手をよく洗うこと。
＊保護眼鏡／保護面を着用すること。
＊粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
＊粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
＊屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

応急措置

＊ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診断/手当てを 受けること。
＊吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい 姿勢で休息させること。
＊気分が悪い時は医師に連絡すること。
＊気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること。

保管及び廃棄方法

＊子供の手の届かない所に施錠して保管すること。
＊容器の保存は、日光を遮断し、必ず密栓し、温度４０℃以上になる所、水周りや湿度の高い場所には置かないこと。
＊容器の廃棄の際は、中身を使い切ってから捨てること。
＊内容物や容器を廃棄する場合は都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3．組成・成分情報

単一製品・混合物の区別：　混合物

含有成分及び含有量

成分名・化学名	含有量mass%	CAS No.	化審法No.	安衛法No.	PRTR 法No.	毒劇法No.
シリコーン類	非公開	非公開	非公開	非該当	非該当※1	非該当
プロピレングリコール	3未満	57-55-6	2-234	1786※	非該当	非該当
防腐剤	0.2以下	非公開	非公開	非該当	非該当	非該当
水	バランス	7732-18-5	非該当	非該当	非該当	非該当

注）化審法No.　化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律（化審法）官報公示整理番号

安衛法No.　労働安全衛生法（安衛法）
安衛法規則別表第2の政令番号（2025年4月1日から施行）

PRTR 法No.　特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律（PRTR 法）対象化学物質の政令番号

毒劇法No.　毒物及び劇物取締法の政令番号

4．応急措置

眼に入った場合：　コンタクトの有無を確認し、着用している場合ははずし、直ちに多量の清浄な流水（冷水）で１５分以上洗眼し、瞼の裏まで完全に洗うこと。もし刺激等の異常があれば直ちに医師の診断を受けること。

皮膚に付着した場合：　皮膚に接触・付着した場合、付着液を紙・布等にて素早くふき取り、もし衣類が汚染した時は脱ぎ、触れた部位を多量の水又は石鹸を用いて洗浄すること。関節部、指と指の間をよく洗浄すること。皮膚外観に変化が見られたり、痛みがある場合には、速やかに医師の診断を受けること。

吸入した場合：　直ちに作業を中止し、空気の新鮮な場所に移り、保温とともに安静にすること。呼吸が困難な場合、ネクタイ・ベルト・ウエストバンド等の衣類の締め付けを緩めて、マウストウマウス人工呼吸を行なうこと。気分が回復しない場合は医師の診断を受けること。

飲み込んだ場合：　水でよく口の中を洗浄した後、多量に水を飲ませ、可能であれば指を喉に差し込んで吐き出させ、直ちに医師の診断を受ける。
意識がない場合には、吐かせてはならない。

5．火災時の措置

消火剤

適切な消火剤

火災の場合は霧状、泡、粉末。炭酸ガスを使用すること

使ってはならない消火剤

特になし

特有の危険有害性

燃焼の際に有毒な炭素酸化物を生成する

消火を行うものへの勧告

特有の消火方法

関係者以外は安全な場所に退去させること
漏洩した場合、着火源を除去すること
霧状水により容器を冷却する
安全な距離から散水冷却して周囲の設備を保護すること
消火水の下水への流入を防ぐ

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

防火服又は防煙服を着用すること
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること
消火作業従事者は全面型陽圧の自給式呼吸保護具を着用する

6．漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

区域より退避させる
関係者以外は近づけない
換気不十分な場所で漏洩を処理するときは自給式呼吸保護具を着用する
適切は保護具を着用する
着火源を取り除くとともに換気を行う

環境に対する注意事項

漏れ出した物質の下水、排水溝、低地への流出を防止する

封じ込め及び浄化の方法及び機材

不活性の物質（乾燥砂、土など）に吸収させて、容器に回収する
回収物はラベルを貼って密閉容器に保管する

二次被害の防止策

漏出物を回収すること
着火した場合に備えて、消火用器材を準備すること
安全に対処できるならば漏えいを止めること

7．取扱い及び保管上の注意
取扱い
技術的対策
（取扱者のばく露防止）
スプレーを吸入しないこと
スプレーの吸入を避けること
（火災・爆発の防止）
熱、高温のもの、火花、裸火及び他着火源から遠ざけること。禁煙
（局所換気、全体換気）
排気/換気設備を設ける
（注意事項）
皮膚に触れないようにする
眼に入らないようにする
安全取扱い注意事項
使用前に取扱説明書を入手すること
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと
屋外又は換気の良い場所だけで使用すること
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること
保護手袋を着用すること
保護眼鏡/保護面を着用すること
指定された個人用保護具を使用すること
衛生対策
取扱い後は汚染個所をよく洗うこと
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙しないこと
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること
保管
安全な保管条件
換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。涼しいところに置くこと
施錠して保管すること
安全な容器包装材料
ガラス、ポリエチレン、ポリプロピレン

8．ばく露防止及び保護措置
管理指標
管理濃度　規制なし
許容濃度　規制なし
ばく露防止
設備対策
排気/換気設備を設ける
洗眼設備を設ける
手洗い/洗顔設備を設ける
保護具
呼吸用保護具
呼吸用保護具を着用すること
手の保護具
保護手袋を着用する。推奨素材：非浸透性もしくは耐化学品ゴム
眼の保護具
側面シールド付き安全眼鏡又は化学品用ゴーグルを着用する
皮膚及び身体の保護具
保護衣を着用する
繰返し又は長時間取扱いの場合、耐浸透性の保護衣とブーツを着用する

9．物理的及び化学的性質

外　観	：	白色乳化液体	発火点	：	有用な情報なし
引火点	：	なし	爆発限界	：	有用な情報なし
ｐＨ	：	中性	密　度	：	１．０
溶解度　水	：	可溶	蒸気圧	：	有用な情報なし

１０．安定性及び反応性

反応性	反応性なし
化学的安全性	通常の保管条件/取扱条件において安定である
危険有害反応可能性	特になし
避けるべき条件	高温、凍結
混触危険物質	特になし
危険有害な分解生成物	炭素酸化物

１１．有害性情報（人についての症例、疫学的情報を含む）

プロピレングリコール

急性毒性　経口ＬDD50 ラット　２０００ｍｇ/ｋｇ

皮膚腐食性/刺激性　データなし　有害性は弱いと思われる

眼に対する重篤な損傷/刺激性　無刺激（ウサギ　ドレイズ法）

感作性　情報なし

生殖細胞変異原性　マウス骨髄小核試験で異常なし

催奇形性　情報なし

発がん性　情報なし

生殖毒性　情報なし

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

（1）～（3）のヒトの知見より、中枢神経系及び血液系が標的臓器と考えられる。また、（3）、（4）の実験動物のデータからも神経系及び血液系が標的臓器と考えられる。また（3）より麻酔作用がみられている。以上より、区分１（中枢神経系、血液系）、区分３（麻酔作用）とした。

（1）２歳の男児が約 1.75～2.25%の本物質を含むヘアジェルを誤って約３オンス摂取した後に中枢神経抑制及び代謝性アシドーシスを生じた。男児は嘔吐を繰り返し、嗜眠になり、強い痛みにしか反応しなくなった（ATSDR addendum (2008)、SIDS (2004)）。

（2）経口摂取による急性中毒症状は眠気から知覚麻痺、意識喪失、昏睡に至る。他の徴候としては、血清の高浸透圧、乳酸アシドーシス、及び低血糖である（IPCS PIM 433 (Accessed Oct. 2018)）。

（3）高用量の経口摂取による急性毒性症状は、中枢神経抑制と麻酔作用である。ラット及びマウスでは運動失調、眼瞼下垂、自発運動減少、体幹及び四肢の緊張、及び呼吸の減少である（ATSDR addendum (2008)）。

（4）ラットの単回経口投与試験では、区分２範囲の 730 mg/kg 以上で赤血球数・ヘモグロビン・ヘマトクリット値の減少、及び網状赤血球・血漿ヘモグロビン・浸透圧の増加がみられた。また、赤血球の電顕観察で表面粗造、膜の破壊もみられた（SIDS (2004)、ATSDR addendum (2008)）。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

（1）、（2）のヒトのデータより中枢神経系が本物質の標的と考えられ、区分１（中枢神経系）を採用した。また、（3）の実験動物のデータより、吸入経路での影響は区分１の用量で呼吸器への影響がみられたことから、区分１（呼吸器）とした。なお（3）のデータにおける試験濃度の 160 mg/m3 (51.4 ppm) は飽和蒸気圧濃度 (108.9 ppm) の 90%より低く、ミストを含まない蒸気と考えられることから、蒸気の基準を適用した。

（1）15ヵ月の若年者が内服治療の溶媒として本物質を繰り返し大量に摂取した結果、低血糖と中枢神経抑制による有害症状を生じた。服薬中止により症状は急速に改善した（PATTY (6th, 2012)）。

（2）本物質を含む治療薬を１年以上内服した後に 11 歳の少年が大発作を起こした。この他、本物質に溶解したフェニトインを内服した患者で中枢抑制症状の報告がある（IPCS PIM 443 (Accessed Oct. 2018)）。

（3）ラットに本物質を 13 週間吸入ばく露（160～2,200 mg/m3、６時間/日、５日/週）した試験では、区分１の範囲内である 160 mg/m3（ガイダンス値換算：0.12 mg/L）以上で鼻腔の出血、眼の分泌物の増加、1,000 mg/m3 以上で、鼻腔に杯細胞数とムチンの増加を伴う呼吸上皮の肥厚がみられた（環境省リスク評価第 6 巻：暫定的有害性評価シート (2008)）。

誤えん有害性　情報なし

シリコーン類

急性毒性（経口）ＬＤ５０　ラット　５０００　ｍｇ/ｋｇ

急性毒性（経皮）ＬＤ５０　ウサギ　２０００　ｍｇ/ｋｇ

急性毒性（吸入）数分間の短時間暴露では、有害影響は起こりにくい

皮膚腐食性/刺激性

短時間接触で、局部発赤を伴う皮膚刺激を起こすかもしれない

眼に対する重篤な損傷/刺激性

中等度に目を刺激することがある

角膜損傷を起こすことがある。

呼吸器感作性　情報なし

生殖細胞変異原性　情報なし

発がん性　情報なし

生殖毒性　情報なし

催奇形性　　情報なし
特定標的臓器毒性
特定標的臓器毒性（単回ばく露）影響なし
特定標的臓器毒性（反復ばく露）影響なし
誤えん有害性　　物性上、誤えん有害性は低い

１２．環境影響情報
プロピレングリコール
生体毒性
水生環境有害性　　短期
水性生物毒性 魚毒性　ＬＣ５０　１０００００　ｍｇ／Ｌ：ヒメダカ　９６Ｈ
水生環境有害性　　長期（慢性）成分データ　情報なし
残留性・分解性　　易生分解性　ＢＯＤ（ｎ＝４）５６％ ＢＯＤ（ｎ＝１０）５３％
生体蓄積性　　情報なし
土壌中の移動性　　土壌中の移動性データなし
他の有毒性　　オゾン層への有害性データなし

シリコーン類
生体毒性
水生環境有毒性　短期　ＬＣ５０＝１０～１００（ｍｇ／Ｌ）（類似物質）
水生環境有害性　長期（慢性）成分データ　情報なし
水溶解度　　溶解しない
残留性・分解性　データなし
生体蓄積性　　情報なし
土壌中の移動性　土壌中の移動性データなし
他の有毒性　　オゾン層への有害性データなし

１３．廃棄上の注意
・　内容物、容器等の廃棄は許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理すること。
・　製品が付着している容器、機械装置等を洗浄した廃液などは、地面や排水溝にそのまま流さないこと。
・　排水処理等により発生した廃棄物についても、廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び関係する法規に従って処理を行なうか、委託すること。

１４．輸送上の注意
国連番号、国連分類　　非該当
ＩＭＤＧ　Ｃｏｄｅ（国際海上危険物規定）　非該当
ＩＡＴＡ　航空危険物規則書　　非該当
ＭＡＲＰＯＬ条約付属書Ⅲ―個品有害物質による汚染防止法
海洋汚染物質（該当/非該当）　　非該当
バルク輸送におけるＭＡＲＰＯＬ条約付属書Ⅱ改訂有害液体物質及びＩＢＣコード
非該当
国内規制がある場合の規制情報
船舶安全法　　非該当
航空法　　非該当

１５．適用法令
毒物及び劇物取締法　　該当しない
労働安全衛生法　　1786 プロピレングリコール（2025 年４月１日から）
化学物質管理促進（ＰＲＴＲ）法　　該当しない
消防法　　該当しない
大気汚染防止法　　該当しない
水質汚濁防止法　　該当しない
都道府県又は市町村条例により規制が異なる場合があるので、詳細は当該自治体にご確認ください。

１６．その他の情報
１６．１　引用文献

①　ＧＨＳ対応による混合物（化学物質）のＭＳＤＳ作成法の研修テキスト
②　中央労働災害防止協会
③　１６６１５の化学商品　化学工業日報社
④　ＧＨＳ分類対象物質一覧（Ｈ１９）　独立行政法人　製品評価技術基盤機構
⑤　製品安全データシート　各原料メーカー発行原料メーカー発行の製品安全データシート

⑥ JIS Z7252：2019
⑦ JIS Z7253：2019

16.2　ＪＩＳの有無
なし

16.3　記載内容の問い合わせ先
連絡先：　株式会社ユーエスシー
電話番号：　０４２－３５１－００１１
ＦＡＸ番号：　０４２－３５１－００１０

※注意
製品安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報モデルの一つとして、取り扱う事業者に提供されるものです。
取り扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取扱いなどの実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いします。
従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。